

出題傾向の分析

問 1 はリスニングテスト。昨年同様独自校共通問題で、従来の会話の応答を選ぶ問題・内容理解の問題以外に、地図を見て答える問題が加わりました。それぞれの選択肢が共通問題の3倍ほどの長さのため、聞き取る力に加え読むスピードも要求されています。リスニング以外では問 4・問 8 が独自校共通の問題です。問2の適語補充・問3の正誤問題はいずれも基本的な問題です。問 4 が会話の流れに合うよう短文を書く条件作文。問われている文法事項は基本的なものなので点を落とせない問題です。問5・問6はいずれも会話文で、会話文補充と内容一致の問題。内容一致の問題形式が私立校の形式に近いものですが、会話の流れと同じ順番で設問が並ぶので解きにくいものではありません。問 7 は内容一致・文法を含む長文総合問題。問 8 はグラフのついた読解問題。本文とグラフの数値の両方をきちんと読み取ることが求められています。

入試までに準備しておくこと

文法問題は 2 年生の範囲からも広く出題されます。オーソドックスな出題のため、点を落とせない分野です。今までの復習を万遍なくしておきましょう。

読解問題では、長文の中にエッセイや新聞記事など別の文章が挟み込まれる点や道徳的な物語文が多いことが本校の特徴です。英文の量が比較的多いので、日頃から多くの長文に触れて読むスピードを上げましょう。また、同じく分量の多い横浜翠嵐や湘南の過去問を解いて練習をするのもよいでしょう。

条件作文は近年独自入試でますます出題が増えている分野です。文法の復習をきちんとするとともに、短文を書く練習や和文英訳の練習をしておきましょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。英検準 2 級・3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	8	8	10
	記述	英問英答			
		和問和答			
小計		8	8	10	
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計		0	0	0	
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充	3		
		語順整序			
	記号	部分英作		5	5
		完全英作		4	
小計		3			
小計		6	9	5	
読解	記号	内容理解(含英問英答)	10	16	12
		内容一致	10	6	3
		段落・文整序			2
		段落・文・節挿入	6	4	
		適語(句)・文選択	3	5	9
	記述	語順整序	2		2
		内容理解(指示語など)		2	
		語形変化			
		空所補充	1		1
		和文英訳			
		部分英作			
小計	英問英答				
	条件英作	4		4	
	和問和答			2	
	小計	36	33	35	
合計点		50	50	50	

出題傾向の分析

例年通りの大問 4 題の構成で、総小問数は 30 題でした。

問一は、漢字の読み書き、表現、四字熟語、漢文、短歌の鑑賞文でした。漢字の読みの「トウシン(答申)」は普段から新聞などを読み慣れていると解きやすかったです。漢字の書き取りは、「处世訓」「人後(におちない)」など、語句の知識が無ければ解答が難しいものでした。

問二は、小説文からの出題でした。例年に比べ、主人公の内面を細かく描写する文章で、設定から心情を推測するというよりも、心情を象徴する表現から心情を理解するという出題が多くなりました。

問三は人間の労働をテーマにした論説文で、近年よく出題されるようになった話題です。新聞やテレビで報道されるニュースを見て、自分で考えることを心がけていると、文章の内容が理解しやすいでしょう。

問二・問三を通して、選択問題の選択肢が、公立高校に多い「4 択」ではなく「5 択」「6 択」に増えているものがあります。選択肢の内容を素早く理解する練習をする必要があります。

問四は 22 年度に初めて導入された「独自校共通問題」の古文です。柏陽高校の過去の出題傾向と比較すると、傾向はほとんど変わっていません。時間配分に気をつけて、最後まで解答できるようにしましょう。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		2		2		4
	漢字の書き取り		4		4		4
	四字熟語・語彙	1	1	1	1		
漢文		1		1		1	
敬語							
韻文	俳句(鑑賞文含む)			1		1	
	短歌(鑑賞文含む)	1					
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	4	2	8		8	
	場面を問う設問	4					
	語句						
	本文との正誤問題	2		4		4	
論説	接続語の補充	2				2	
	傍線部の理由を問う設問	2		2		4	
	傍線部の説明を問う設問	4		2		4	
	抜けている表現の補充			2	2		
	本文との正誤問題	6		6		4	
古文	主語を問う設問	2					
	仮名づかい・語彙						
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問	2		2		4	
	本文の内容を問う設問	2		2			2
本文との正誤問題	2		4		2		
条件作文			6		6		6
合計			50		50		50

入試までに準備しておくこと

漢字そのものは難しくないのに単語を知らないために書けない、という漢字の書き取り問題が出題されています。三字熟語・四字熟語・慣用表現を幅広く身につけておく必要があります。また、漢文が出題されるので、読みなれておく必要があります。全体を通して、選択問題では選択肢の数が多く、その読解にも時間を取られることを意識する必要があります。時間をはかりながら問題を解き、素早く解答する練習をするとよいでしょう。問題の分量が多いので、最後の一问まできちんと解き終わるように気をつけましょう。

出題傾向の分析

出題構成は、大問が昨年度よりも1題減って6題になりました。昨年度は、問1と問2が4問ずつの独立小問集合形式になっていたのですが、今年度は問1のみを独立小問集合形式にしたためです。総小問数は昨年度と同様17題でした。

問1の小問集合では、(ア)から(オ)まではミスが許されません。(カ)の面積比は類題をどれだけ練習してきたかが鍵になります。(キ)は場合の数では、複雑な計算は必要ありませんが、1つ1つの事象を丁寧に検証する根気強さが必要でした。問2は関数の出題であり、今年も面積に関する問題が出されています。この単元は今年も他の独自問題出題校と共通の問題になっていますが、昨年度の関数の共通問題と比較して難易度が上がっています。問3は規則に従って数字を並べる問題でした。この問題では、数列の基礎知識を利用できるかどうかだけでなく、その場でじっくり考えることができるかどうかも問われました。問4の速さの文章題は、ここ数年の傾向と異なったものであり、グラフを書いていくなどして正確に状況をつかまなければならない問題でした。問5は円と直線に関する問題で、全文記述形式の証明問題が出題されました。こちらは、他の独自問題出題校と共通の問題になっていました。問6は空間図形からの出題でした。昨年度は柏陽独自の空間図形の問題を出題していましたが、今年はこの空間図形の問題も他の独自問題出題校と共通の問題になっています。また、難易度は昨年度よりも高くなっています。

入試までに準備しておくこと

昨年は大問6題のうち2題が他の独自問題出題校と共通の問題であり、この2題の難易度は他の4題と比較するとあまり高くありませんでした。一方、今年は大問6題のうち3題が独自問題出題校共通の問題となっていますが、この問題の難易度が昨年度よりも高くなっています。特に関数と空間図形の難問については、多くの問題を解いておく必要があります。また、文章題でグラフを利用して式を作る問題も類題の経験が必要です。神奈川県独自の問題だけでなく、それ以上のレベル、すなわち難関国私立高校や都立独自入試の問題にも触れておきましょう。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			
	数の計算			
	式の計算	2		2
	平方根	3	3	3
	多項式の乗法		2	
	因数分解	2	2	2
	小計	7	7	7
方程式	1次方程式			
	連立方程式			3
	2次方程式	2		
	方程式の応用	7	4	
	不等式・不等式の応用			
	小計	9	4	3
関数	比例と反比例			
	1次関数			
	2次関数			
	変化の割合・変域	2	3	3
関数と図形	直線と曲線	3	3	3
	関数と図形	3	3	3
	小計	8	9	9
三角形・四角形	角度			4
	作図			
	合同			
	相似	3		6
	三角形		3	3
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	5	6	3
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比		3	
	面積、面積比			
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	3		
	面積、面積比	3	3	3
	体積、体積比		3	
	点の移動と図形			
	回転体、球			3
	小計	14	18	22
確率	場合の数	3	3	
	確率		3	9
総合問題	数と式	9	6	
	図形			
	その他			
	小計	12	12	9
	合計	50	50	50